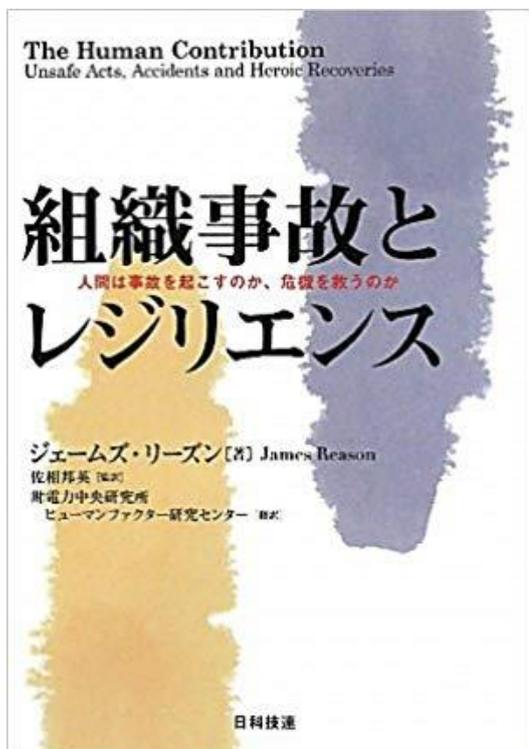


3分で読める 医療安全ニュース 9期/2号

レジリエンスの強い組織へ



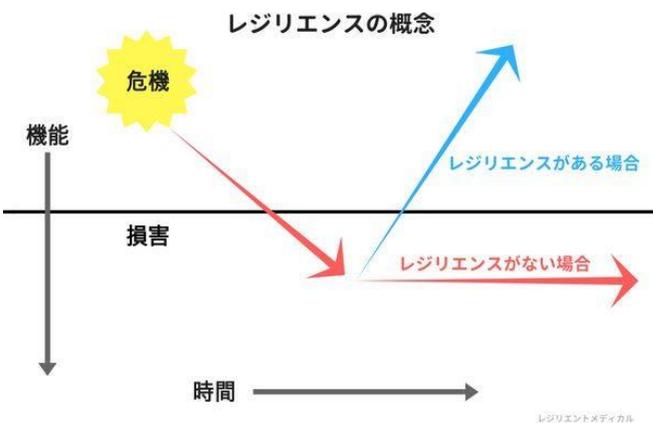
ジェームズ・リーズン 著、佐相邦英 監訳、(財)電力中央研究所ヒューマンファクター研究センター 翻訳、日科技連出版社、2010年6月

● レジリエンスとは

1. 前回の医療安全ニュースでレジリエンスの高い組織についてふれました。今回は少し詳しく説明させていただきます。
2. レジリエンスという言葉の訳し方は使われている目的や分野で多少異なり、回復力、復元力、跳ね返す力、折れない心、適応力などがあります。
3. 過日報道番組で、トヨタが営業利益のV字回復を達成したが、その理由としてレジリエンス(回復力)という言葉で解説がありました。トヨタは常に改善活動(トヨタ生産方式:TPS)や原価低減活動を徹底しています。リーマンショックから続く影響で2008年には4300億円の赤字とリコールの追い打ちによる利益の低迷が続きました。しかし、2013年1兆8000億の過去最高益を達成し、2018年3月期にはさらに上回る2兆4000億円の利益を達成したとのこと。豊田社長は従業員に適度な危機感を持たせるための工夫を行い、**BCM(事業継続マネジメント)を通して有事に強い人材を育成しレジリエンスの強い組織**としているそうです。
4. スイスチーズモデルで有名なジェームズ・リーズンは「組織事故とレジリエンス(左図参照)」の中で「**人は人である以上エラーを起こすことは避けられないが、時に危機的な状況を、驚異的な人の行動で切り抜けることができる能力を持ち合わせている**」と述べています。11の実例を挙げどのような経過でリカバリーが実践されたのかについて共通点を探り、人の持つ奇跡的ともいえる力が考察されています。
5. 個々人のレジリエンスを強くすればレジリエンスの強い組織が形成され、仮に**重大事故が発生するような逆境でもそれを成長に変えることができる**というわけですね。左図「レジリエンスの概念」参照。

● レジリエンスを高めるために <https://resilient-medical.com/>より引用

1. **予見する**：今後起こる可能性のある状況の変化や危機を想定することです。これは**普段から現場の状況を的確に把握**していなければできないことです。また、インシデントを学習の機会に活かさない組織風土を排除する必要があります。事例参照アプリの活用をお願いします。
2. **監視する**：予見するだけでは不十分です。鋭い観察を行うことで、**状況の変化や危機に気づくことが大切**になります。
3. **対処する**：予見監視することができても、実際に状況の変化や危機に直面したときに**対処できる**ことが求められます。そのため、事前に対処する手段を確保したり、組織的にどのように対処するのかを取り決めておくことも有効でしょう。また、組織の成員が**個々にスキルを磨く**ことも大切です。
4. **学習する**：状況の変化や危機に直面し、どのように対処したかを振り返り、学習の機会として活かしていくことも大切です。インシデントをアクシデントに発展する前にどのように回避あるいは対処したか。それら一連の出来事は、**今後の組織安全に活かせる学習の機会**となるのです。そしてその学習が、今後の「予見」「監視」「対処」に生きてきます。
5. 今期は医療安全計画を実践し、全員参加でまず1歩進めて参りましょう



<https://resilient-medical.com/>より引用 2018.8.8